スクエアダンス授業奮闘記

ダンディライオンスウィンガーズ　西中ますみ

■きっかけ

中学校で勤務している私は、

「ますみちゃん、中学校で生徒にスクエアダンス、教えられないの？」

と言われることがありますが、体育教師でもない私が生徒にスクエアダンスを教える、というのはそう簡単なものではありません。同好会を発足するとしても、例えば、練習場所の確保はどうするのか、複数体制で臨んでいる部活指導、誰かが一人欠ける、ということへのフォロー、自分が転勤した後の指導者など、様々な要因をクリアしなければ、それは叶わないのです。

また、外部講師を入れることに学校は慎重です。授業で行うとなれば、スクエアダンスに消極的な生徒にも教えなければならないわけです。教育的配慮した上での指導はもちろんのこと、生徒と講師の相性が良ければいいのですが、そうでなければ、下手をするとスクエアダンスと生徒の距離は開いてしまうこともあるでしょう。

そんな中、S 協から TAIKEN プログラムが発表されました。全 7 回程度の講習内容と、それに即した実践的なコレオが紹介されているのを見て、この回数と分量ならなんとか授業で実践できるかもしれないな、と考え始めたのがきっかけです。また、自分が所属している学年の生徒のノリの良さを見ていたら、

「この子たちがスクエアダンスをやったら、楽しんでくれるのではないか」

という思いが日に日に強くなっていきました。

校内人事の調整が行われ始める 3 月。それとなく管理職の先生に

「体育と道徳の授業を使って、この学年でやってみたいことがあります。ぜひ学年に残してはもらえないだろうか」というお願いをしました。「スクエアダンス」の名前を出したところ

「あれ？この間、それをテレビ番組で見たなぁ。え、それを授業でできるの？」

と管理職の先生の反応。北海道で 2 月、3 月にかけて放送されたスクエアダンス紹介の放送を見ていたご様子。

「部活としてスクエアダンス部を立ち上げるのは無理だけれど、授業でできるのであれば、それは構わないよ。ただし、十分教科の先生とも相談して可能であれば取り組んでみたらいいよ」

と、言っていただき、そこから私の準備が始まりました。

■準備 1 ～理解を求めて～

さて、まずは、周りの理解を求めることからです。学年所属の体育科の先生に

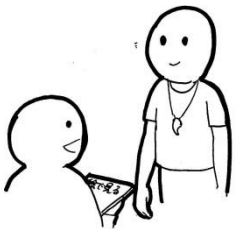
「体育のダンスの授業でスクエアダンスをやりたいと考えています。もちろん私がメインで教えるので、体育のダンスの授業に私を入れていただいて、一緒に授業をやっていただけないでしょうか」

ということをお願いしました。このとき、群馬ですでに中学生にスクエアダンス授業を行ってらっしゃる、平賀さんから見せていただいた資料等に目を通していただきました。お願いしやすく、また理解ある先生でしたし、資料を提示したのも功を奏して、

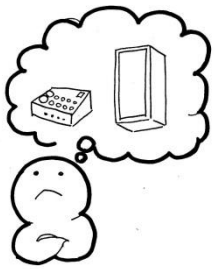
「ご自分の授業（全学年美術）以外に、体育の授業を持って頂いても大丈夫ですか。それでしたら是非やってみましょう」

と言って頂くことができました。

私が所属している第 2 学年は学年行事として 7 月に一泊二日で宿泊学習が行われます。国立日高青少年自然の家、という場所で実施することが決まっており、夜、キャンプファイヤーを囲んで、何かレクリエーションを、ということになっていました。そのレクリエーションにスクエアダンスを活用できれば、と思いつき、それも先生方に賛同していただいたので、体育祭終了後の 6 月に集中的に各クラス毎にダンス授業を取り入れ、講習を行うことにしました。



■準備２～機材～



次に準備しなければならなかったのは、機材の確保です。自分が所属しているスクエアダンスクラブは昼の例会と夜の例会に分れており、機材を拝借するわけにはいきませんでした。また学校で使用するとなると、破損が心配されます。そこで、近畿支部の玉田さんに機材について相談にのっていただき、自分で安価な機材を購入することにしました。

何もわからない私に

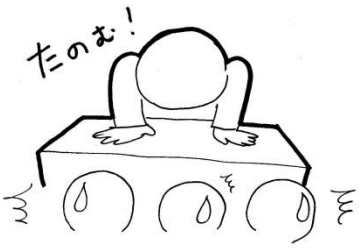
「教室で行う場合」

「体育館で行う場合」

「屋外で行う場合」

などに分けて、機材の種類等、懇切丁寧にメールでご指導いただき、またボリュームコントロールのユニットも作って頂きました。これを、学校に常備することで、授業に備えました。

■授業開始～導入～

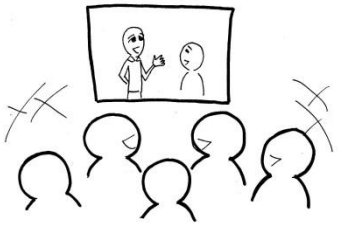


体育祭が終わり、いよいよ生徒にスクエアダンス授業です。まずは導入。

「本当にこの学年はノリがいい。ここまで全体的にノリが

いいのは、私、いろんな学校を回っているけれど、初めてくらい！そんなみんなを見込んで、お願いがあります。スクエアダンスに取り組んで欲しい」

というお願いから始め、導入に北海道ローカル番組「1×８いこうよ」のスクエアダンス紹介部分を約 20 分ちょっとに編集したものを見せました。



この番組は、タレントの大泉洋さんと北海道のコーラー、澤田さんの掛け合いがコミカルで、見ているものに笑いを誘うような形で、本当に楽しくスクエアダンスが紹介されています。生徒も体育の先生も飽きることなく、番組に見入っていました。

見終わった後、

「実はさ、私、コーラーなんだよね」

という私の話に生徒は驚いており、同時に、美術教師である私が英語を使ったり、ダンスをする、ということに興味を持ったようでした。この日の残り 20 分少々（授業は 1 コマ 50 分授業です）は、

「Partner, Boys, Girls,1 組～4 組、Heads, Sides」

等の言葉や、

「Circle Left, Circle Right, forward and back」

くらいまでをこの時間の中で行いました。

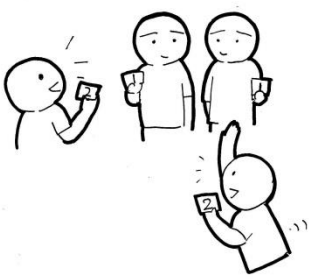
特に、forward and back は番組の中で、大泉さんがとても楽しそうに取り組んでいたのもあり、生徒たちもノリノリで大はしゃぎ。

まずまずの滑り出しを終えることができました。

■実践

体育の授業として、ダンスの取り扱いとして 7 時間くらいはとれるということでしたし、道徳や学活の時間等も活用することで TAIKEN プログラムを余裕を持って終了できるだろうと考え、取り組み始めました。外部の方をお願いするのは色々難しさを感じていたので、エンジェルダンサーは一切なし。

そのせいもあって、最初の共通コールズは 50 分授業の中では終わらせるのが難しく、導入の残り時間、第 2 回の講習課題の最初の時間が必要でした。しかし、おおむね、TAIKEN プログラムの講習内容はそれぞれ 50 分授業の中でちょうど良い量と内容だったと感じています。



中学校の授業では、男の子達が女の子を誘うというのはとても無理だと思われましたので、男女、それぞれ 20 番までの番号札を作り、ランダムに配布して１～４番のカードを持った生徒でセットをつくる、という形にしました。

幸いなことに男女の割合は同数に近く、男子は必ず男性役、女子は必ず女性役になるようにしました。どうしても、同性同士で組みたがる生徒も出ては来るのですが、そこは、ルールとして、例外は認めませんでした。

常に 4 セットと数名の見学者ができるような状態で授業を行い、どんどんメンバーチェンジをすることでできるだけ多くの人と踊るように配慮しました。中には苦手な人同士がカップルになる場合もありますが、短時間でセット替えがあるのなら、なんとか我慢できるものです。また、見学者もコールを聞きながら自主練習をする生徒も現れました。

ダンス自体を嫌がったり、人間関係の問題で、授業が本当につまらない雰囲気になったらどうしよう、というのが一番の心配ごとでしたが、学級で取り組む中、ムードメーカーの子が上げてくれる楽しい歓声や、なかなか聞き取れなかったり、理解できない子に積極的に教えてくれる子たちに助けられながら授業を進めることができました。

また音楽の力には強く実感した時間でもありました。様々なレーベルからスクエアダンスの音楽が出ています。古くからある曲も使いましたが、新しい曲は音自体もいいですし、迫力もあるので、積極的に使うようにしました。子どもたちが知っている曲などがかかると、嬉しそうだったり、また、雰囲気がだらっとしてきたときに、ヨーデルを挟んだりすると、みんな笑顔で踊ってくれたりしました。

■イレギュラー

楽しい雰囲気で授業が進んでいる中、それとは別のところで、学年の中に問題が起こりました。後片付けがしっかりできていなかったり、ものを乱暴に扱ったり・・・普段の学校生活を送る上で、気が緩んで起こるようなことが積み重なってきたのです。

急遽、学年集会を行い、学年全体に指導が入りました。本来であれば、この日、ダンス授業を予定していたのですが、そのような中、楽しい雰囲気の授業はふさわしくないと判断し、延期することにしたのです。

この時の判断は良かったと思います。このようなイレギュラーな授業の入れ方ができるのは、外部講師ではなかなかできないことです。学校内部のものが教えることができる強みを感じました。

■授業の様子

一クラスあたり 35 名～38 名の 4 クラス。これを 7 時間持つと 28 時間。時間割の先生にお願いして、自分の美術の時間をこの時期、少なくしてもらったり、学年の授業を調整していただき、なんとか 6 月中に授業を組んで頂きました。

同じように教えているつもりでも、クラスの雰囲気や理解力で進度が微妙に変わります。また、クラスによって「こういうことが盛り上がる」「こういうことはやらない方が良い」などの微妙な調整等もあります。

普段から学年の様子を見知っている体育の先生のサポートは非常にありがたかったです。

特に、セットを変える時など、体育の先生がうまく調整してくださったりするので、私は次に使う音楽を選曲したり、音響の調整や次にやるコールを安心してすることができました。

スクエアダンス授業をやると、クラスカラーの違いがはっきり出ます。

・とにかく明るくて、騒ぎすぎてコールを聞き逃すクラス。
・あまり大きな盛り上がりはないけれど、コールをよく聞いていて、スピーディに動けるクラス。
・恥ずかしがって、おとなしく、いかにも「多感な中学生」と思わせるクラス。
・適度に盛り上がり、よく話も聞けて、ゲットアウトで盛り上がれるクラス。

体育の先生もその様子を見て、
「クラスの反応がよく見えるし、同じ動作だけれど、こんなにたくさんの音楽を使えるし、とてもいい教材ですね！学校の規模によって色々工夫できそうですよね。でもコールは難しそうだなぁ・・・」
と、おっしゃっていました。

それでも、どのクラスも star thru や side face grand square　が出てくると、うまくいったときに「おお～！」という歓声があがったり「すごい！」という声が聞えたり、拍手が生まれたりしていました。

■宿泊学習準備

さて、7 月 3 日の宿泊学習へ向けて、生徒はそれぞれ係分担をし、準備を進めます。私が担当したのは、スクエアダンスをやるレクリエーション。

その中で担当の子たちと話しを進めました。晴れたら、キャンプファイヤーを囲んで、雨天の場合は施設に付属している体育館で行える、というのもスクエアダンスの優れている部分でした。

彼女たちは
「スクエアダンス、すっごく楽しい！絶対みんなレクでやっても楽しむことができる。最近はこの体育が楽しみで楽しみで！体育の時間があっという間に過ぎていきます！」
と言ってくれたのは、とても嬉しいことだったとともに、ほっとした瞬間でもありました。そして、それを聞いて、私の中でまた一つアイディアが浮かんできたのです。

7 月 10 日は北海道ジャンボリーが十勝を会場に行われます。このときにお願いしている、ゲスト、静岡ハッピーハートの篠ヶ谷さん、そして S 協からいらっしゃる勝亦さんにゲスト授業をお願いできないか、ということ。TAIKEN プログラムに携わってらっしゃるお二人に TAIKEN プログラムの成果を見て頂ける機会にもなります。

そしてお二人なら、中学生もウキウキワクワクするようなコールをしてくださること、間違いなし。それを想像するだけで、私の心も浮き立ったのでした。

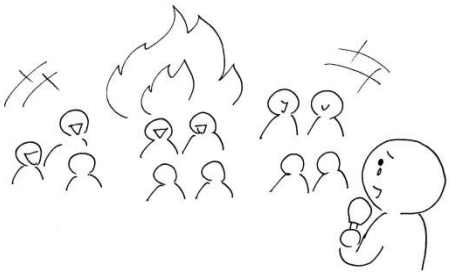
■宿泊学習

その日の天候は日が差したり、雲がかかったりと微妙な天気でした。キャンプファイヤーの準備が整ってきた夕方頃、小雨が降り始めました。会場を体育館に移そうか迷っていたところ、レクリエーション係の生徒達が

「先生、キャンプファイヤーやりましょう！これくらいの雨ならみんな出来ます。このあと、すぐお風呂に入ることができるし。キャンプファイヤーを囲んで、みんなで踊った方がきっと盛り上がります！・・・でも機材が大丈夫か心配ですが・・・」

と、熱心に訴えかけてきました。そう言ってくれる彼女たちの気持ちが嬉しくて、片付け始めた機材をもう一度、雨よけになりそうな屋根の下に設置し直しました。

小雨降る中ではありましたが、キャンプファイヤーを囲んで、約 150 人の生徒達が楽しそうに踊る姿は、壮観でした。いつもはクラス単位での授業でしたが、初めての学年全部でのスクエアダンス。盛り上がる学級にはおとなしめのクラスの人がパートナーになるように、組み合わせを考え、みんなで踊りました。野外での音響は決して良いものではなく、聞き取りにくかったと思いますが、笑顔で踊る子どもたちの姿を見て、少々ほろりとしてしまう私なのでした。



きっと、父は私のコールを褒めないけれども、この子どもたちの姿を見たら、多分褒めてくれるだろうなぁ、と思いました。二人が亡くなってから初めて、私は父に、そして母に私がコールしている、この様子を見てもらいたい、という気持ちになりました。

帰りのバスの中、生徒達とスクエアダンスの話をしていたら、女の子の一人が

「私は Dosado の動作が一番好きです！あれ、外で見ていると、本当にみんなの動きがきれいで・・・」

と話しており、

「そうかぁ、スクエアダンス、コスチューム着ると、本当にステキなんだよー。パニエの色も色々あってとっても綺麗で。スカートをちょっと持つだけで、ぐっとまた華やかになってさ。昔なんて、いたずらする男の子がわざと、Ladies in men sashay なんかでスカートめくりしちゃったりして！みーんな、大騒ぎして踊っていたんだよ！」

と話したら、その子は「いいなぁ、コスチューム、着てみたいなぁ。楽しいだろうなぁ！」とニコニコしていました。

この子たちがみんなコスチュームを着て、踊ってくれたら・・・それこそどんなにかわいらしいだろう、と私も想像するだけで、ウキウキしてしまいました。

■ゲスト授業

宿泊学習の翌週の月曜日はゲスト授業。それに向けて、一度学年で復習をかねて練習をし、月曜日を迎えました。

校長室でまず講師の勝亦さん、篠ヶ谷さんを校長先生にご紹介しました。勝亦さんがスクエアダンスが日本に導入された経緯や日本で今どのようにスクエアダンスが踊られているのかの説明をしてくださったので、校長先生も熱心に聞き入っていました。外部の方が入るということで、少々心配されていたと思いますが、お二人の人柄に安心されたように見受けました。

体育館に機材を設置し、いざ生徒を迎えると、おずおずとどこか緊張した面持ちで体育館に入ってくる生徒。

まずは私のコールで足慣らし。その様子を見て、お二人がどのように生徒にコールするかを考える、とのことでしたが、私は色々間違えて、生徒からも突っ込まれる始末・・・。勝亦さんにも笑われてしまいました。

いよいよ勝亦さんのコール。このとき、私も体育の先生も生徒と共にセットに入りました。勝亦さんが選曲されたのは、中学生にも人気のある歌手の曲。

曲が流れ始めた途端、生徒達の顔がぱぁっと明るく輝くのが見えました。最初は聞き慣れない声でのコールを聞き取ることに苦労していた生徒も慣れるにしたがって、また、勝亦さんのさりげないフォローでどんどん踊れるように。

次の篠ヶ谷さんのコールも、中学生がよく知っている曲を使ったもので、曲が流れた瞬間にリズムをとりはじめる生徒たちもいました。

以前、私は昔ながらのカントリー調の曲がやっぱり好きだ、と少し拘っていた時期もありますが、柔軟にいろいろな曲を取り入れることの必要性や効果をとても感じました。(が、なかなかそれを生かすのは難しいのですが・・・)

お二人とも、生徒をのせる手腕はさすがです。かけ声をあおったり、褒めて下さったり・・・。生徒達の緊張も少しずつほぐれ、楽しいスクエアダンスの時間を過ごしていました。ダンスの様子を校長先生や他の学年の先生も見学しにいらしてました。

図々しいお願いを快諾していただいた、勝亦さん、篠ヶ谷さんのお二人に深く感謝いたします。

後日、何人かに感想を聞いたところ

「他のクラスの人と踊ったから、あまりはじけられないところもあったけれど、とっても楽しかった！」

とのこと。いつも、斜に構えたように取り組む男の子に聞いてみても

「いや、最初、聞き取りにくさもあったけれど、すぐに聞き取れるようになったし、楽しかったっす！」

・・・なるほど、ちょっと仏頂面して見えても、結構楽しんでいるものなのですね・・

そうして私の怒濤のスクエアダンス授業の 1 ヶ月ちょっとは幕を閉じたのでした。

■授業の中でのドラマ

スクエアダンスの授業を通して、生徒達はいくつものドラマを私に見せてくれました。

息を合わせて、うまく Grand Square をできたときの喜び。

ゲットアウトをしたときの、純粋な喜び。

運動が苦手な子が「体が勝手に動くようです！」と嬉しそうに語る笑顔。

なかなか聞き取れない子に、手をさしのべる子。

その中でも、特に心に残るドラマがあります。

ずっと体調不良で講習に参加できていなかった子が、最後の躍り込みだけ、授業に参加したことがありました。

「スクエアダンスはね、ひとり、踊れない人がいたとしても、周りがフォローしたらなんとか踊れるダンスなの。いい？いつもはみんな、恥ずかしがって、手を離しちゃったりするけれど、手をさしのべて。こっちだよ、って教えてあげて。きっとできるから。間違えてもいいから！」

そう伝えてから始めたハッシュ。右往左往する彼に、周りの子が、「こっちだよ、あっちだよ」と手をさしのべ、見事そのセットは最後まで踊りきったのです！むしろ他のセットが壊れているときにも、そのセットは踊れているくらいだったのです。

「今日初めて参加したのに、踊れたねぇ！がんばったねぇ！すごい！！！」

という私の声に、みんなが拍手。

「そして、それを支えたみーんなに拍手！！」

の言葉に、さらに拍手が巻き起こり、いつもは静かな方だったそのクラスが、ダンス授業の中で一番、といって良いほど盛り上がったのでした。

このことを、私はずっと忘れられないと思います。

■後日談

先日、学年の保護者を交えた茶話会・懇親会が開催されました。

「ダンス授業の様子をぜひ見てみたい」
という保護者の方がいらしたので、ハッシュだけではありますが、宿泊学習の 1 チップと勝亦さんの 1 チップ（カメラが定位置ではなく、様々な生徒を撮影してくれていた）の動画を見て頂きました。
保護者の方も
「わぁ、子どもたちが英語を聞き取ってる～。あ！恥ずかしそう！でもなんだか楽しそう！」
と楽しそうに見て下さって、スクエアダンスを好意的に感じて下さったようでした。
また、中には
「うちの子、スクエアダンスの授業が大好きで、大好きで。一度、授業が中止になったときには家でむくれていたし、この間の最後の授業が終わったら、もうこれからはダンス授業がない、って残念がって。妹や従姉妹を巻き込んで 4 人くらいでダンス、YouTube みながらやってますよ！」
と話して下さいました。
「私が所属しているクラブでも例会やっていますから、お母さんもぜひ！」
と言ったら
「いやいや、私は英語ホントに無理だから！」
と、断られてしまいましたが、いつか親子でスクエアダンスを始めてくれる方が出てきたら・・・こんな嬉しいことはありません。

このダンス授業は、私一人ではとても無理でした。学校・管理職・学年の先生・そして生徒のノリが必要なのはもちろんですが、私を支えて下さったたくさんの方がいらっしゃいます。

TAIKEN プログラムの案を聞いたとき、「その録音を使えば講習をしたことがない私でも教えることができるんですね？」と言ったら「いやいや、キミ、コーラーなんだからキミがコールして教えればいいでしょ」と、背中を押して下さった金子ジュニアさん。
3 月のレークサイドのパーティでは、子どもたちにわかりやすく、そして楽しめるコールの見本を見せて下さった友定弘子さん。友定尚美さんには、子どもにスクエアダンスを教える時の大変さやコツも教えていただきました。
その帰り道、学校でスクエアダンスを教えることの大変さをわかって下さった上で応援して下さった近畿支部の綿谷さん。
私がスクエアダンス授業をやる、ということを知り、色々な資料を送って下さって応援してくださった群馬の平賀さん。
いつも機材の相談に乗って下さる、玉田さん。
青年フォーラムでお会いしたときに応援してくださった副会長の中村さん。

いつだって、励まし合えて、一緒に悩んでくれる、新潟シーガルスクエアーズの中川洋さんには授業の様子を聞いてもらいながら、励ましていただきました。

そしてこの TAIKEN プログラムがあったからこそ、私は授業を組み立てることができました。プログラムに携わった皆様に感謝申し上げます。

この経験は、これからの私の一生の糧になると思います。

本当にありがとうございました。そして、これからもまた、宜しくお願いいたします。

		A組		B組		C組		D組				
回	日付	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子計	女子計	計
1	6月9日	18	19	18	19	17	18	17	19	70	75	145
2	6月13日	18	18	18	19	17	18	17	18	70	73	143
3	6月14日	18	19	18	16	17	18	17	16	70	69	139
4	6月19日	17	19	17	16	17	18	16	18	67	71	138
5	6月22日	18	19	18	18	17	18	17	15	70	70	140
6	6月28日	18	19					17	17	35	36	71
7	6月29日	18	17	18	18	17	18			53	53	106
8	6月30日			18	18	18	18	17	17	53	53	106
9	7月3日	18	19	18	18	18	18	17	17	71	72	143
10	7月7日	18	18	18	18	17	18	17	15	70	69	139
11	7月10日	18	18	18	17	18	18	16	17	70	70	140
合計										699	711	1410

＊7月3日は宿泊学習にてレクリエーション（10～15分程度）

＊7月7日、10日は学年全部で体育館でTAIKENプログラム躍り込み。

（うち10日は、勝亦さん、篠ヶ谷さんにコールをお願いした）